

# 『おおいしだの』とむがすあつたけど⑤

## 井出の子育て地蔵さま



今から三百四十年ほど前(延宝時代)のこと。その年の秋は、長雨が続き最上川は大洪水になった。どこの農家でも困りはて、天気まつりなどをして神社に祈願したそう。

何日も降り続いた雨も、ようやくあがったある日、井出の若い衆が、田畑の見まわりに行った帰り道のことだそう。東の方から、月がこうこうと昇りはじめ、雲ひとつない夕方。草むらの水たまりから呼ぶような哀願するような声が聞こえてきた。驚いて立ちどまり、じいっと声のする方に近づいてみると、なにやら得体のわからない黒い物が、

「おぼろだ、おぼろだ(おんぶしてほしい)。」  
 と言っているようであった。四、五人いた若い衆はその声を聞いて尻込みしたそう。その内の一人の若者は非常に気が強くて、

「そんなにおぼろだなら、ほら、おぼろちゃ。」

と言つて手をさしのべると、三尺ほどの丸太であったそう。

「なんだ、川流れのばいだ(薪)でねい。」

と言つて捨てようとする、手のようなものもあるし、足のようなものもある。

「これや、ちよつとまでや。」

と言つて他の若い衆を呼んで、月明かりでよく見ると、頭は丸く、目もある鼻もある、口もあるして、一体の仏像に変わったそう。

若い衆は、

「これは大変なことだ。」「そまつにはさんない。」「もつたない。」

と言つて、どうしたらいいか相談しあつたそう。

「そんなにおぼろだ、おぼろだいと申されているのだから、おぼろだといふころまでおぼろだといつたらいいんねが。」

と相談がまとまつたそう。

気の強い若者は、持つていたかます(わらむしろを二つ折りにして作った袋)に入れて、おんぶしてきたそう。

「おらだは井出村の若い衆だが、そつちの方でええが。」

と聞くと、

「それだけつこう、けつこう。のぞんだ所だ。」

と申されたそう。

村に近づいたので、

「(お)でええが、(お)でええが。」

と言つた。

「まだだ、まだだ。」  
 と申されるので、おんぶしてきたそう。

村の入り口に辻堂があり十王様を祀つてある所までくると、  
 「(こ)でええ、(こ)でええ。」  
 と申されるので辻堂の前におろし、皆で手を合わせお別れして帰つたそう。

それぞれの若い衆が家に着くなり、今日の出来事を話すと、またたくまに村中に広がりおさわぎになつたそう。村の親方衆はじめ村中が集まり相談し、お寺の和尚さんに頼んでおんぶしてきた仏体を、浄水(きれいな水)で洗い清めたところ、立派なお地蔵様であった。和尚さんは、

「(苦)勞なされてよく(こ)までたどりつかれた。お地蔵様に風邪などひかれては大変だ。きれいな弧(あらく折つたむしろ)をお着せして十王様と一緒(いっしょ)にしろ。」  
 とありがたいお経をあげたそう。

その夜は、村中総出でかがり火をたいて通夜したと言ひ伝えられている。五十年程前までこの行事が続いていた。

今でも旧九月十六日(満月の日)は地蔵様の大祭日としている。

延享時代、大石田町大庄屋高桑金蔵様の一人娘が大病にかかり、八方の名医にかかっても助かる見込みはないと診断されたそう。

ある夜のこと、大庄屋の枕元に地蔵様が立ち寄り、

「(ぜ)んざい、(ぜ)んざい、これなる私は、いつぞや、あなたの若い衆に難儀のところを助けられた地蔵なるぞ。これより子育て地蔵となり、あらゆる慈悲と念力をもつてあなたの娘を助けてしんぜよう。」

と申されてすつと消えたそう。大庄屋は夜の明けるのを待たずに普門寺へ参り、祈禱を受け、一心に精進され、祈願されたそう。

その甲斐あつてか、娘は日増しに元氣を取り戻し、丈夫に成長したという。

高桑家はお礼にと改めて井出子育て地蔵堂を建立し、辻堂の十王様と一緒に安置し再興されたと棟札に書いてある。

現在の堂宇は、昭和三十一年秋の台風で倒壊し、再々建したのである。幸いにして地蔵尊本体等には少しの損傷もなかった。

○出典「大石田の」とむがす」

(大石田の」とむがすの会発行)

町の人口 令和元年9月1日現在		
世帯数	2,348 戸	(-3)
総人口	6,998 人	(-21)
男	3,436 人	(-12)
女	3,562 人	(-9)
(8月中の異動)		
出生	1 人	転入 4 人
死亡	15 人	転出 11 人

※この数字は外国人数も含めた数字です。

### 楽がき帳

9月16日は敬老の日でした。満百歳になられた方へのお祝いの際に、長寿の秘訣は何でしょうかとお聞きすると、皆さんそれぞれの健康法があるのですが、ほとんど共通して返ってくる答えもあります。「好き嫌いなく、なんでもよく食べること」。しっかりと食べるのが、何よりも大事ということですね。

ここ10日ほどで、あんなに暑かったのがうそのように涼しくなり、夏バテ気味で落ちていた食欲も少し回復してきました。体重も落ちたので維持したいところですが、健康のためなら仕方ない、食欲の秋を満喫したいと思います。

(あ)

